

春風秋霜

3月号

令和8年3月17日
島田市教育委員会だより
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 歴史から学ぶこと

今回は、オリンピックに出場したアスリートたちの言葉や、思いを紹介しました。今回は、戦国時代の武将の生きざまを見ながら、人間として大切なことを考えていきたいと思います。

皆さんは、NHKの大河ドラマを見ていますか。私は、大河ドラマが好きで、今回の「豊臣兄弟！」も、楽しく面白く見ているひとりです。

今回の主人公は、豊臣秀吉ではなく、その弟の秀長です。信長・秀吉・家康がリーダーとして比べられることはありますが、有名な武将を支えた人物に焦点を当ててその人となりや語られることは、あまりありません。今回は、支える人が、いかに大事かを考えたいと思います。

「豊臣秀長は、『天下一の補佐役』で、豊臣秀吉が活躍できたのは、弟の秀長がいたからである。また、『天下一の縁の下力持ち』と評価されることもあり、秀吉が、天下を統一し、秀長がもう少し長く生きていたなら、豊臣秀吉が治める世の中が、もっと続いただろう。」とされています。

豊臣秀長は、兄の豊臣秀吉を支える家臣としてだけでなく、その人格や人材育成でも高い評価を受けています。特に「人を信じること」の重要性について説き、その行動で示した場面がいくつか歴史に記録されています。

2 「人を信じることの大切さ」について

大河ドラマに出てくる場面でも、秀長は、決して人を裏切りません。信じた武将を裏切ることはなく、そのような秀長の心に打たれた武将が、秀吉が国をまとめていく途中で、何人も味方となり陣営の中で強い力を発揮しています。人を信じる秀長だからこそ、周辺の人はその人柄に惹かれてついていくようになるのです。

また、豊臣秀長が大和国（現在の奈良県）を統治したとき、地域の安定を図るために、それまで対立していた土豪（地方の有力武士たち）や寺院を信じて許容し、その存在を活かすことを心掛けました。例えば、有力な寺社勢力である興福寺や法隆寺とも信頼関係を築き、平和的な関係を保つことで地域の安定化に成功しています。

当時、多くの戦国大名は力で一方的に敵を制圧することが主流でしたが、秀長は異なるアプローチを取りました。彼は「人を信じ、能力を活かす」ことを重視し、土豪や寺院関係者たちと誠実に話し合いました。その結果、大和国の統治は非常に円滑に進み、豊臣政権の大きな拠点として機能しました。これぞ「人を信じることの実践」といえると思います。

3 家臣の実力を信じて任せること

豊臣秀長は、秀吉の家臣団の中でも「謙虚で丁寧な人格」を持ち、家臣たちの能力を信じて適材適所に配置したことで知られています。

特に有名な話は、竹中半兵衛への信頼です。竹中半兵衛は優れた知略を持つ軍師として知られており、豊臣軍に参入した時から、秀長は彼の能力を十分に理解し信じました。これにより竹中半兵衛は、自分がつ力を大いに発揮し、秀吉だけでは対応できないような難しい外交や軍事戦略を成功させていきました。

また、秀長自身が統治していた大和国でも、家臣団の意見を積極的に取り入れ、決してトップダウンではない柔軟な統治モデルを推進していました。「人を信じ、役割を託すこと」がいかに大切かを、秀長は実践的に示していたとされています。

肘かけ椅子

『変化の時代に向き合い、未来を紡ぐ教育の力』

学校教育課長 大石真司

私は2年間、学校教育課から教育現場や教職員の皆さんの活躍を見させていただき、教育現場における変化や可能性について改めて考える機会をいただいています。特に昨今、社会は大きく様変わりし、将来を担う子供たちに何を伝え、どう育ていくべきか、多くの課題が挙げられています。しかし、そのような時代だからこそ、これまでの教育現場で積み重ねてきた価値ある営みを大切にしながら、新たな挑戦を積極的に行う姿勢が求められていると感じています。

今年1月11日に「令和8年島田市はたちの集い」が開催されました。参加した皆さんは大変落ち着いた雰囲気の中で、立派な姿を見せてくれました。

今年、20歳を迎えた皆さんが中学3年生の時、世間では新型コロナウイルス感染症が広がり、長期間の休校や教育活動の制限を余儀なくされるといった、前例のない状況に直面しました。当時、私が勤めていた中学校でも、本来であれば、教育活動の中で味わえるはずの喜びや感動体験を制限されることが多くありました。そのような中でも、子供たち自身がどこか冷静に目前の困難を捉え、その状況を受け止めながら、自分にできる役割を果たしていた姿をこの式場で思い出し、感慨深い思いを抱きました。そして、今回の「はたちの集い」で、彼らのつながりや成長した姿を見ることができたのは、本当に喜ばしい瞬間でした。式典では、市内出身のフルート奏者の方が、20歳を迎えた皆さんがともに歩んできた経験を音で共感するような美しい演奏を披露してくださいました。20歳を迎えた皆さんが演奏を聴く姿から、困難な時期をしっかりと自分たちの足で乗り越えて、今があるのだと感じました。

私は、あの前例のない状況の中での教職員の皆さんの取り組みが、子供たちの人生の揺るぎない基礎となっていると改めて感じました。

これからも教育現場では新たな課題が次々と生まれることが予想されます。しかし、教職員の皆さんには、これまでと同様に島田市の子供たちに寄り添い、チーム学校で新たな挑戦を続けていただきたいと思います。私たち教育委員会も、そのための教育環境の整備に努めていきたいと思っています。